E 12　農村女性の生活意識（2）　―― 農村家族における世代間の統合 ――

お茶の水女大家政　○松島宏子　袖井孝子

目的　統合（Integration）は、「社会システムを構成する諸要素間の矛盾・対立・葛藤を極小化して両立できるように調整し、全体としてまとまりと独立性を維持する過程」と定義されている。本研究では、家族成員間の情緒関係によって「農村家族における世代間の統合」を明らかにする。

方法　「農村女性の生活意識（1）」に同じ

結果　(1)各世代間の情緒関係の統合度はきわめて高い。(2)「サイフのひも」の所在，結婚年数，家族周期，家族構成の寄与度が高い。(3)「サイフのひも」の所在は、いずれの世代間においても「本人と夫」で情緒関係が高く、「父母」で低い。(4)夫，夫の親との情緒関係は、本人の年齢，結婚年数が増すにつれて高い。逆に，本人の親との情緒関係は，本人30代，結婚年数10年未満で高い。(5)夫，子供，本人の母との情緒関係は、核家族で高いが、夫の親との情緒関係は、先祖代々が岡部町に住み、拡大家族を構成している専業農家で高い。(6)40・50代が、老後は長男夫婦との完全同居形態での扶養を当然のことと考え、生活信条では家族志向であるのに対して、30代は、子供との分離意識の芽生えや、生活信条の個人志向的傾向がみられる。(7)嫁姑関係についてみると、昭和20・30年代は、家制度にもとづく封建的人間関係の中で、嫁が姑に対して絶対服従を守り、常に上の世代が若い世代を吸収するというメカニズムによって統合がなされていた。これに対して、現在は、姑の『和の精神にもとづく協調』と、嫁の『自己主張をともなう協調』という、協調のメカニズムによって、統合がなされている。